

図10 各漁場の年度別釣獲率の推移

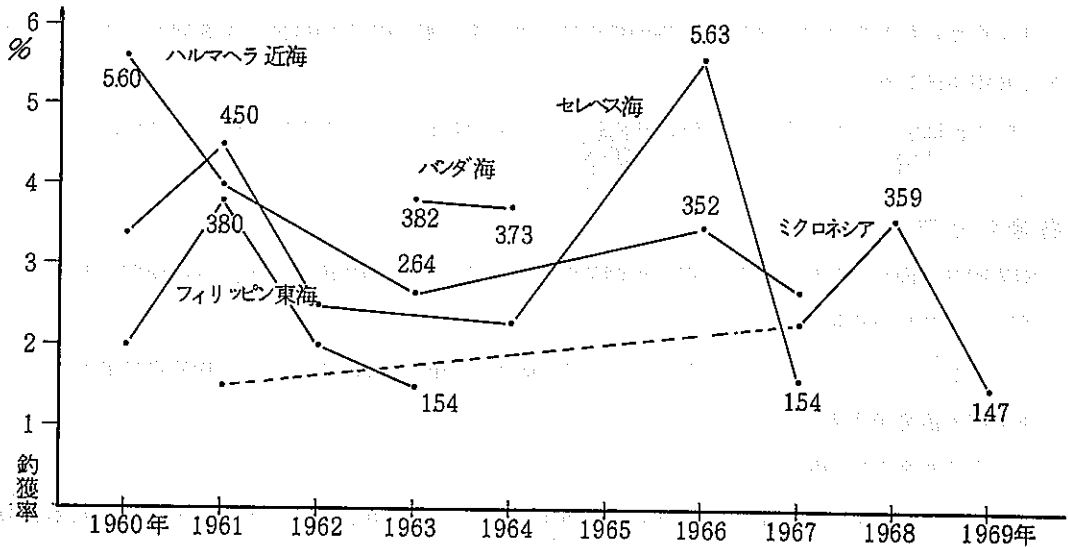
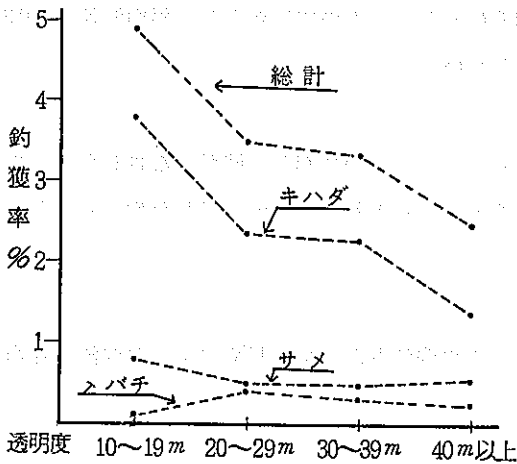


図11 透明度と釣獲率



キハダの場合は図11のように透明度が高くなるに従い釣獲率は低下する傾向が見られるが、その他の魚類は相関は余りないようである。

温度差はあっても漁況に差程影響するものではない様である。釣獲率上位3魚種の場合、キハダは大体同率を示し、メバチは水温差の大きい方が良い結果を示し、サメ類の場合は逆に水温差が少い方が若干高い率を示した。

表7 表面と100m層の水温差による釣獲率の関係

温度差	100m層が表面より		
	0~5°C低い	5.1°C~10°C低い	
釣獲率	釣獲率	釣獲率	
総計	3.22%	3.34%	
釣獲率上位3魚種	キハダ	2.13%	2.10%
	メバチ	0.26%	0.46%
	サメ	0.59%	0.48%

マグロ延縄漁業の漁獲対象魚類が最も多く遊泳しているのは100m層を中心にその内外に

にあると想定して、0mと100m層の水温が漁況に、どのような影響を与えているかを調べたのが表7である。この表から見ると、表面から100m下まで等水温でも又は10°Cの

天候と漁況

晴の場合より曇や雨の場合は釣獲率も高い傾向を示すものと臆測していたが事実は僅かながら逆